

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価） 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 社会に貢献できる研究者・技術者を育成するため、学生が学会や論文などで研究発表できるよう指導を行う。	→就職状況、研究成果の公表・特許の出願状況、日本学術振興会の特別研究員採用人数。	B
2. キャリアパスを学生に周知させる。	→キャリアセミナーの開催状況。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

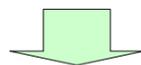
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.4.1	(方針) 学習・研究成果の評価指標の構築、及び就職支援とその評価を行う。 (現状説明) 評価指標は概ね構築された。2009年度は229件の学術論文発表があり、19件の海外での学会発表がなされた。特許について10件の出願が行われた。日本学術振興会の特別研究員にも5名が新規採用になっている。HPを公開している研究室は全研究室の85%である。就職支援活動として9回のキャリアガイダンスを実施した。就職率は96.3%であり、ほとんどの学生が研究・開発系の技術者として就職している。
☆ 小項目6.4.2	(現状説明) 複数教員による指導体制を整備したことにより学位授与評価はより客観性をましたといえよう。就職先評価については修士課程修了生については極めて良好な状況にある。博士課程修了生については博士研究員となるケースが多く、他大学で行われているMOT(Management of Technology)教育導入を検討する必要がある。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
☆ その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○「現状説明」6.4.2のうち、「修士課程修了生については就職先評価が極めて良好」との記述につき、根拠資料や数値データを提示されるとさらに説得力が増します。この種のデータを蓄積している大学はまだ多くありませんので、信頼性の高いデータならば貴重な資料になります。

【学内委員】

○小項目6.4.2の現状説明では、「複数教員による指導体制を整備したことにより学位授与評価はより客観性をましたといえよう」とありますが、2専攻での実施ですのでここまで言い切っているのでしょうか。
 ○また学術論文発表数等は優れているのではと思いますが、評価基準数をどこかに記されることを期待します。
 ○キャリアガイダンスの実施状況も良好ではと思われます。
 ○論文や特許などの研究成果が数多く出てきており、教育目標に沿った成果が具体的に上がっている点は大いに評価できます。また、キャリアガイダンスも定期的に行われ、就職状況もかなり良く、この点も評価できます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ 4.2 (現状説明) 複数教員による指導体制に関しては、6. 3. 4 参照。
--

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.4.0.S1	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.4.0.S2	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.4.0.S3	各学部における学生の進路状況
6.4.0.S4	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.4.0.S5	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.4.0.S6	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.4.0.S7	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.4.0.S8	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.4.0.S9	修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S10	KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S11	3年卒業の適用者数
6.4.0.S12	ジョイント・ディグリーの授与者数
6.4.0.S13	標準修業年限未満の修了者の数
6.4.0.S14	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

<個別的な指標>
